みんなで未来の高校のアイデアを考えよう！

しがの高校をリ・デザインする県民ワークショップ



第６回　開催報告

11月3日（火･祝）
13:30～16:00

しがの高校をリ・デザインする県民ワークショップ

第６回 開催概要

日　時：2026年11月3日(火・祝) 13:30～16:00
会　場：甲賀市まちづくり活動センター「まるーむ」
参加者：19名
主　催：滋賀県教育委員会

当日のスケジュール

13:30	開会・教育委員会からの説明 / WSの説明
13:55	第１部① 高校のいいところ・チャレンジできるところ
14:20	第１部② これからのしがの高校への提案
14:40	休憩
14:50	第２部　テーマごとに、提案を１つに育てよう！
15:35	発表・共有
15:55	まとめ



このワークショップについて

滋賀県では、2040年を見据えた高校教育の将来ビジョンの策定を進めています。本ワークショップは、その検討に県民の声を反映させるため、中高生・大学生から保護者、教職員、地域・企業の方まで、さまざまな立場の人が集まり、これからの高校の在り方を対話で考える場として県内6か所で開催します。

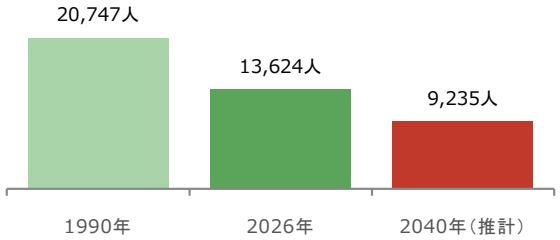
参加者

高校生9名、保護者・PTA1名、教育関係者4名
企業・教育事業・NPOなど2名、地域住民・自治会2名、行政・議会1名

2040年を見据えた高等学校教育の在り方について

滋賀県教育委員会から、滋賀県の高校教育を取り巻く課題について説明がありました

1 生徒数の減少



滋賀県の15歳人口（中学校卒業予定者数）は、2026年から2040年までに**約4,389人減（約110クラス分に相当）**の見込み。

- ✓ **生徒数の減少に合わせた学校規模の検討**
- ✓ **地域の実情に応じた配置・役割**
- ✓ **多様な学びの場の確保**

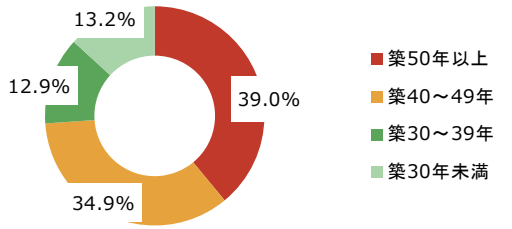
2 学びの多様化と授業料無償化

学習ニーズの多様化
- 生徒の興味・関心や進路希望等に応じた学びの多様化への対応
- 不登校生徒の増加に伴う対応や、外国人生徒等の多様な学びへの対応

地域とのつながりによる学びの展開
- 地域や企業との交流、地域人材の活用等による高校教育の魅力化
- 地域課題の解決に主体的にかかわる、地域の将来を支える人材の育成
- 地域の小中高の学校段階間の円滑な接続

国による高校授業料無償化の拡大（令和8年度～）
- 公立・私立を問わず経済的負担が軽減
- 県立全日制高校の平均志望倍率が1倍を切る
- 県内私立全日制高校への志望割合が15.9%で過去最高

3 校舎等の老朽化



- 将来的に多くの学校で改築や大規模改修が必要となり、その経費負担が大きな課題に。
- 魅力化の観点から、施設・設備の充実（専門的な学びに対応した設備機器、体育館空調など）も必要。

4 課題のまとめ

多様な生徒一人ひとりが「滋賀」という地域から学び、社会の一員としての自立を目指す学校づくりを進めるとともに、時代に合わせた新たな学び、県立高等学校の配置の在り方等を検討し、**生徒、保護者から進学先として選択される、魅力ある高校づくり**を進めていく必要がある。

セッション１ ：高校の いいところ / チャレンジ

甲賀地域・滋賀県の高校について、2つの視点で意見を出し合いました

いいところ・残したいところ

地域・歴史	・忍者や史跡など、文化・伝統が残る ・曳山まつりなど地域のお祭り ・お茶・陶器などの地場産業、地元メーカー ・豊かな自然、災害が少ない
地域・人	・地元の方が協力してくれる、地域愛が強い ・独立心が強く共和的、人権を大切にする風土 ・企業が多く、大人との関わりが多い ・あいさつがしっかり、朗らかな人が多い
学び・進路	・系列・コースが多く、学べる選択肢が多い ・地域協力の授業や探究学習がある ・受験知識の深い先生、手厚い進路指導 ・大学連携で多様な学びが増えている
学校生活	・行事に力が入っている、学園祭に全力 ・部活が盛ん（レスリング、ライフル射撃など） ・制服がかわいい、服装自由の学校も ・草津線でまとまる、地価が安く意外と便利

チャレンジできると思うところ

学校をこえる	・学校の垣根をとっぱらって他校と交流 ・甲賀地域全体で体育祭・文化祭 ・一年ごとに学校を変える、飛び級も ・偏差値でなく校風や価値観で選べる
世界・地域と	・留学・ホームステイの制度、費用の支援 ・日本語を学ぶ外国人住民と互いに教え合う ・地域の企業といっしょに課題に取り組む ・政治家や大学・社会人との交流
新しい学び	・オンライン・オンデマンドの授業 ・大学みたいに時間割を自分で決める ・ペーパーテスト以外のテスト ・リベラルアーツ、国際・技術などへの特化
制度・環境	・バイトOK、バイトで単位GET ・学食・食堂、お弁当販売、自販機の増加 ・バス・電車の本数、通学費の補助 ・エレベーターなど古い施設の改善

セッション２ ：これからのしがの高校への提案

一人ひとりが「アイデア提案シート」に提案を書きました（一部抜粋）

学校の枠をこえる

すべての高校が集まれる一つの高校

県内のすべての高校が一つの高校に集まるイメージを絵で表現

自分で作る高校の学びを

授業の半分は本拠地の高校で、残り半分は興味のある学校や地域で学ぶ

クラス替えみたいに学校が変わる！

各校がもっと特化し、一年ごとに通う高校を選ぶ。制服は県で一つ

専門科目をつまみ食い

普通科でも他校の専門科目を受けたい。1～4限は基礎、昼から出ていく

他の学校に参加したい！

他校の授業・部活・文化祭に参加。「○○専門の学校」に聞きに行ける

他の学校とのつながり

学園祭・部活・生徒会などをのぞいて、自分の学校に足りないところを知る

高校同士の助け合いネットワーク

設備や部活動など、その学校にないものを近くの学校同士で融通し合う

甲賀地域大文化祭・体育祭

甲賀地域の全県立高校合同で、地域の企業を巻き込んで開催する

地域・社会とつながる

地域を支え 地域に支えられる高校

地域・企業・小中・大学・行政とつながり、会社やカフェ、図書館をつくる

本気のキッザニア高校

校舎から半径5kmを「領土」に、地域の会社でのアルバイトを必修・単位化

まんぷく高校

私服の学校。毎週地域と連携し、食育会・お笑い・企業・農業体験を授業代わりに

全世代高校生

まちの人が先生にも生徒にも。行事や部活は地域がフィールド、中学生も受講

自分の学校から出る！

毎月、政治家・学者・芸術家など社会人の話をきき、他校と交流・見学

地域参加型の授業

高校ならではの授業や体験を地域の人と一緒に行う

地域とつながり探究できる高校

地域の歴史・文化・産業を活かしたマイ探究で、社会課題の解決を支える

部活×甲賀で日本一・世界一

アスリート精神を地域で支え、合同体育祭も。高校生を日本一に

生徒がつくる学校

上院 下院 生徒会

「先生」と「生徒」の二院制で、学校のことを対等に話し合う

生徒の意見が反映される学校

生徒会を活発に。始業時間や購買、地域との交流など生徒のideaを形に

学校に行きたくなる高校

行事のルールを変え、イベントで自分の「好き」を発揮できるように

皆が楽しく通える学校

ピアス・バイトOK、昼休みは1時間、修学旅行先は生徒が決める

時間にゆとりがある学校

朝に時間があれば元気に登校できる。休み時間が長ければ準備もしやすい

視野が広がる自由校！

校則は最低限に。生徒・先生との関わりからやりたいことを見つける

自由度の高い高校

運動部・文化部が豊富で新しい部活もつくれる。国籍関係なく歓迎

学び方・世界とつながる

世界とつながる学校

県内で人口の多い外国人県民の言語と文化を学ぶ

滋賀の高校を“国際色”ゆたかに

留学しやすい環境へ。まずは外国を知るために留学生を受け入れる

日常から海外展開

普段から外国語を話す

授業をブラッシュアップ

5教科はオンラインも活用し、行事などリアルならではの授業を増やす

未来へのワクワクを高める高校

多様な大人と出会い、他府県の学校や大学とも交流して進路を拡げる

いろんな人とかかわれる高校

地域の人や他の高校の人とかかわれる行事や授業を！

全部とつながる!!

学校外の人との交流を行事に。つながるだけでなく、その後もつながる

セッション３：テーマごとに、提案を１つに育てよう！

テーマ別のテーブルで提案シートをまとめ、AIでイメージ画像にして発表しました

① テーマのテーブルへ ▶ ② 提案シートを作成 ▶ ③ AIでワンシーンを画像化 ▶ ④ スクリーンで発表



A｜甲賀地域立甲賀高等学校
すべての人が活躍できる！地域内で受け止める学校



B｜学校をまちにひらく
他校の生徒と一緒に地域を学び、まちの魅力を案内する



C｜クラス替えみたいに学校を替わる
学校ごとに特色を持たせ、1年ごとに通いたい学校を選ぶ



D｜革命生徒会
自分たちの学校を、自分たちの手でつくれる！



E｜世界のひとつ
校内語は日替わり。世界とつながる豊かな学び



F｜リアル高校
行きたくなる、いろんな人とつながる学校

参加された方の声（アンケートより、一部抜粋）

Q1　今日の話し合いで、いちばん印象に残ったのはどんな話でしたか

・1人1人がどうすれば行きたくなるような学校になるのかを深く考え、意見をいい合えたこと。
・自分の作りたい高校について話すとき、生徒だけでなく大人とも関わるといった意見がよかったなぁと思った。
・自由な校則を求める声が多くありました。2040年には、授業以外での学びをもう少し増やし、職場体験はもう少し幅広い視点で深められたらと思いました。
・2040年には県内の高校生が7割以下になること。地域とつながっていくことを望む人が多いこと。
・生徒会が革命を起こして先生たちと対決するっていうのが、おもしろいし、楽しそうでいいなと思った。
・「つながりたい」「活動したい」という想いが現在の高校生のリアルな願いだったかなと思います。
・「教室を出て」「地域をフィールドに」「多様な学び」。一方、「生徒が自分の意見を出し、自分たちで決めたい」という思いもよく分かりました。
・現状の高校のわくにとらわれない地域立の県立高校の設立。
・甲賀地域ならではの特色のあるテーマについて話し合うことができ、とても有意義なワークショップとなりました。

Q2　今日、伝えきれなかったことはありますか

・バスや電車の本数がすくないので、登校するときにギリギリになる。もっと本数を増やせばいいと思う。
・校則とまでは言わないですが、イベントのルールについてみなおしたいです。
・こんな交流会をもっと増やしましょう。
・本当は今からでも実現できることばかりです。仕組みを変えることも大切ですが、まずは取り組みを変えることへ意識を向けてほしいです。
・出たアイディアは、すでに高校でとりくみ始めています。しかし、それが進まないことが大きな課題。特に学校と地域との交流は、校内外どちらにも思いがあるのに進みにくい現状があります。
・高校生が自分たちで考え行動し、責任を持つ。失敗がたくさんできる高校。

Q3　今後、こんなことを話し合ってほしいというテーマはありますか

・不登校の生徒について。学校にいきずらい子たち。
・公立高校は定員割れが一層進みます。定員割れ＝魅力がないとはならず、「地域の財産」となっていくにはどうしたらよいのか。
・私立学校との関係性について。
・私たち高校生のせだいが、どんな未来を想像しているかなどをしってほしい。
・2040年がどういう世の中になっているのかを考える時間が、さいしょにあってもいいかも。




多様な学びができる学校
リアル高校
行きたくなる、いろんな人とつながる学
地域のイベント
将来を考えられる!


革命生徒会
生徒の権利をくつがえせ!
他校との交流後
自分の学校に足りないところを発表しあう!
自分の意見が通りやすくなる!
生徒が決める!
校則にしばられない!
生徒が
主役の学校
D.生徒が主役の学校













会場の様子